

## 第一生命経済研レポートテーマ（2005年6～7月）

<p>2005年6月号 (通巻99号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・中小企業アイ</li> <li>・経済トレンド</li> <li>・けいざい・かわら版</li>   <li>・よくわかる日本の人口</li>   <li>・産業トレンド</li>   <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>憲法改正論議の切り口 国民的気運を盛り上げるには          日本経済 ～増税と景気の関係～          米国経済 ～スタグフレーション懸念の台頭～          日米経済の現状と6ヶ月後の方向性          露呈する市場の脆弱さと政策当局に求められる対応          外需頼みの脆弱性が露呈          原油価格再上昇のインパクト          今年の夏のボーナス見通し          ～夏季ボーナスは2年ぶりの増加に転じるが、支給額は未だ低水準～          ピークが迫る日本の人口          ～よくわかる日本の人口 【総人口の推移と人口転換】～          ショッピングセンターの発展による小売業の競争激化          ～主戦場となる郊外立地～          産業別利益動向</p>
<p>2005年7月号 (通巻100号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・中小企業アイ</li> <li>・経済トレンド</li> <li>・けいざい・かわら版</li>   <li>・よくわかる日本の人口</li>   <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>思い遣りの形          日本経済 ～復活する自律回復のメカニズム～          米国経済 ～足下は景気減速局面終了前夜～          日米経済の現状と6ヶ月後の方向性          世界的な低金利の恩恵と持続性          中小企業の活力を引き出すには          2005・2006年度日米経済見通し          サマータイム制導入の経済効果          ～余暇時間中の日照時間増で、名目GDPを1兆2,094億円押し上げ～          長寿世界へと増加を続ける死亡件数          ～よくわかる日本の人口 【死亡構造の変化】          産業別利益動向</p>

### 編集後記

日本選手のゴールドラッシュで日本中が沸いたアテネ五輪から1年、今年の夏は世界陸上ヘルシンキ大会がやってくる。「世陸」はオリンピック、サッカーワールドカップと並んで「世界三大スポーツイベント」とされ奇数年（2年に一度）に開催される。1983年に第1回大会が行われて以来、今回で10回目を数える。2年前のパリ大会ではこれまで黒人選手の独壇場で日本人にはメダル獲得不可能と言われていた男子200mで末次選手が初の銅メダルに輝くなど日本選手が大いに活躍した。昨年のオリンピックでも男子ハンマー投げで室伏選手が、女子マラソンで野口選手がそれぞれ金メダルを獲得し日本中を感動の渦に巻き込んだのは記憶に新しい。この夏も日本人選手の大活躍が予感される。

いずれの種目も興味深いが、とりわけ男子100mが注目される。今年6月の国際大会でジャマイカの新鋭アサファ・パウエル選手がこれまでの記録を0.01秒上回る9.77秒の世界新記録を作ったからだ。男子100mの世界記録は1968年に米国のハインズ選手が人類史上初めて10秒の壁を破って9秒台に突入した（9.95秒）。それから37年かかって0.18秒縮めた計算だ。ただし、ここにきて最新の科学技術を取り入れたトレーニングやシューズを駆使しても記録更新が難しくなり人類の限界が見えてきた感がある。99年に米国のグリーン選手が出した9.79秒をモンゴメリー選手が0.01秒塗り替えるまで3年かかっており、今回のパウエル選手が0.01秒更新するまでにやはり3年がかかっている。今年の「世陸」では“人類最速男”を目指してどんな戦いがあるのか、人間の限界に挑むスポーツの祭典に酔いしれてみよう。

(N・I)